

接続語

～日本語文法3～

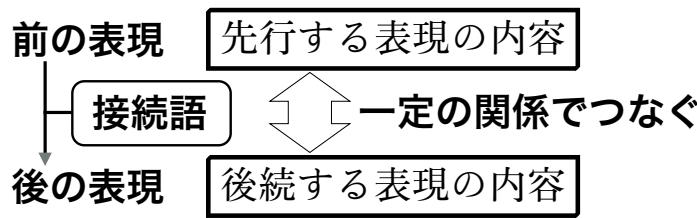
1

総論

2

接続語とは(1)

- 接続語



→前後の表現の内容を一定の関係でつなぐ語句

3

接続語とは(2)

- 接続語
 - 接続語(接続表現)は接続詞よりも意味が広い
 - 接続詞の他に、副詞や指示詞などが含まれる



4

接続語の役割(1)

- 表現における接続語の役割:
 - 表現と表現を関係づける(接続する)役割を果たす
→段落・文・節・句・語
 - 彼は戦った。しかし、負けた。 [文と文]
 - 弱りはじめ、そして、死んだ。 [節と節]
 - コーヒー、または、紅茶です。 [語と語]
 - 文(=基本)だけでなく、様々な表現を接続する

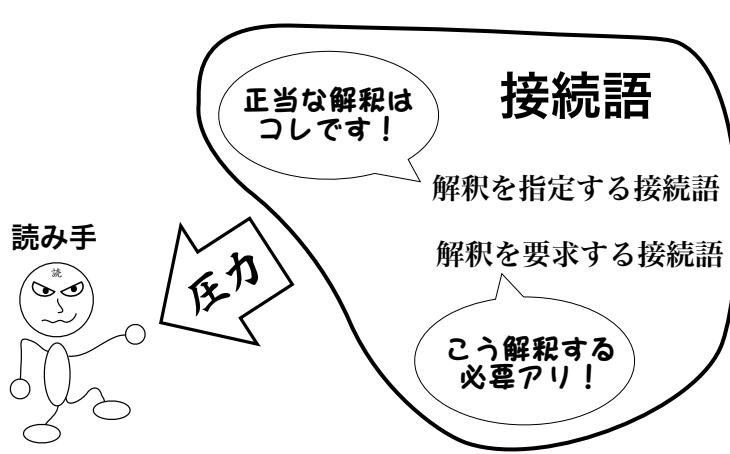
5

接続語の役割(2)

- 読みにおける接続語の役割:
 - 解釈の『手がかり』となるもの
 - 王さんが勝った。 {だから} 陳さんが負けた。
 - ことがらの『見方』を示すもの
- 本来、人間は平等だ。 {しかも} 実際には、不平等だ。

6

接続語の解釈



7

接続語の分類

- 解釈を指定する接続語…… I
 - 前後の繋がりの種類を指定する接続語……… A
 - 後続する表現の性質を指定する接続語……… B
- 解釈を要求する接続語…… II
 - 前後の内容を比較するように求める接続語…… C
 - 後の内容を付け加えるように求める接続語…… D

8

解釈を指定する接続語

- 解釈を指定する接続語
 - 読み手の解釈を特定の方向に導く働きをするもの
 - 前後の繋がりの種類を指定する接続語…… A
 - 順接 : 「だから」「それで」……
 - 逆接 : 「しかし」「けれども」……
 - 転換 : 「さて」「それでは」……
 - 後続する表現の性質を指定する接続語…… B
 - 列挙 : 「まず」「つぎに」……
 - 最終結果 : 「結局」「いずれにしても」……

9

解釈を要求する接続語

- 解釈を要求する接続語

- 読み手の解釈に特定の操作を課す働きをするもの
 - 前後の内容を比較するように求める接続語……C
 - 選択 : 「または」 「あるいは」 ……
 - 対比 : 「一方」 「それに対して」 ……
 - 後の内容を付け加えるように求める接続語……D
 - 追加 : 「そして」 「そのうえ」 ……
 - 言い換え : 「つまり」 「いわば」 ……
 - 内容説明 : 「なぜなら」 「実は」 ……

10

各論

11

A：順接の接続語

- 順接の接続語……①

- 前後のつながりの種類を指定する接続語
 - 前後の繋がりが順当（予想通り）であることを示す
 - 〈だから・したがって〉 の類 1
 - 〈それで・そこで〉 の類 2
 - 〈それなら・すると〉 の類 3

12

1. だから・したがって

- 前の内容が後の内容の理由・根拠であることを示す
 - 雨が降った。だから、学校を休んだ。
↑
理由・根拠 ↑
 - だから : 主に主観的な判断を示す・口頭語的
→ 口頭語では話し手の主觀を表示しやすい (次頁)
 - したがって : 主に客観的な判断を示す・文章語的
- 同類の接続語 (文章語的) :
 - よって、ゆえに、それゆえに、そのため、そのために
- 同類の接続語 (口頭語的) : なので

13

1. だから・したがって

- 「だから」 : 口頭語で話し手の主觀を表示する
 - 失敗した? だから、あれだけ言ったじゃないか。」
 - 〈自分の言うことを理解しろ〉の意味
 - 「何時から?」 「だから、1時だって言っただろ。」
 - 〈自分の話をよく聞きなさい〉の意味
 - 「遊びに行こう。」 「だから、行きたくないって。」
 - 《相手に反抗する内容》の前に用いる
 - 「どうやるの?」 「だから、ここをこうするんだ。」
 - 《相手への具体的説明》の前に用いる

14

1. だから・したがって

- 『だから』の使用に関する注意
 - 『だから』には〈自分の考えを押しつける〉語感がある
 - 『だから』の丁寧な形『ですから』も同様の語感がある
 - 意見を言うときの『だから』の使い方には注意が必要
→ 論理的な文章では『そのため』を使うことが多い
- 話し手の主觀を表示する『だから』は目上には使えない
 - 失礼な表現・相手に反抗する表現になってしまふ

15

2. それで・そこで

- 前後の内容のつながりが自然な展開であることを示す
 - 熱があった。それで、会社を休んだ。
自然な展開
 - 〈だから〉の類とは異なり〈因果関係〉を含意しない
 - 理論的な根拠がない。{だから／？それで}ダメだ。
『話し手の判断』を示す場合などには使いにくい
- 「それで」「そこで」→口頭語的な接続語
 - 同類の接続語（文章語的）：それゆえ、そのため
 - 同類の接続語（口頭語的）：で

16

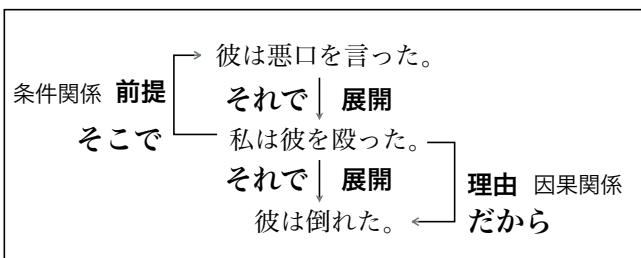
2. それで・そこで

- そこで：前の内容が後の内容の《前提》になる
- それで：前の内容は後の内容の《前提》にならない
 - お金が貯まった。そこで、事業を始めることにした。
→後の内容の《前提》となる事実
 - お金が貯まった。それで、事業を始めることにした。
→後の内容よりも先に成立・存在する事実
- そこで：前の内容を前提に新しい話題を導入する用法がある
 - 「君のおかげでプロジェクトは順調にすすんでいる。
{そこで／??それで} 頼みがあるんだが。いいかな。」

17

2. それで・そこで

- そこで：前の内容が後の内容の《前提》になる
- それで：前の内容は後の内容の《前提》にならない
- だから：前の内容が後の内容の理由・根拠となる



18

3. それなら・すると

- 前の内容が後の内容が成立する条件であることを示す
 - 熱があるのか。 それなら、休んだ方がいい。
└ 成立の条件 ┘
 - それなら：前の内容が《仮定条件》になる
 - 雨かな。 {*する／それなら} 傘を持って行こう。
 - 『雨が降っている』 →既存の事実ではない（仮定）
 - すると：前の内容が《きっかけ》になる
 - 窓を開けた。 {すると／*それなら}、港が見えた。
 - すると→仮定の意味合いを含まない（より因果的）

19

3. それなら・すると

- すると：前の内容を《判断の根拠》として示すこともある
 - 「そのときは、ちょうど大河ドラマを見ていました。」
 - 「{すると／それなら} 8時頃ですね。 [=判断]」
- 否定の条件を表わす接続語
 - 早くしなさい。 そうしないと、間に合いません。
 - 前の内容の不成立(否定)が後の内容の成立条件となる
 - 同類の接続語：
 - そうでなければ、そうでないなら、そうでないと、
でなければ、さもないと

20

3. それなら・すると

- 〈それなら・すると〉の類の用法の整理

	仮定条件	きっかけ	判断の根拠
Aグループ 『それなら』	○	○	○
Bグループ 『すると』	○		○
Cグループ 『する』		○	○
Dグループ			○

21

3. それなら・すると

- Aグループ
 - そうしたら、そしたら
- Bグループ（下線は軽い会話で用いる語、二重下線は文章語）
 - それでは、では、だとしたら、ならば、それじゃあ、じゃあ、そんじゃあ、だったら、なら、そうだとすれば
- Cグループ（下線は軽い会話で用いる語）
 - そうすると、と
- Dグループ
 - とすると、とすれば、としたら、だとすると

22

A：逆接の接続語

- 逆接の接続語……②
 - 前後のつながりの種類を指定する接続語
 - 前後の繋がりが逆関係（予想外）であることを示す
 - 〈しかし・だが〉の類 4
 - 〈けれども・それでも〉の類 5
 - 〈ところが・にもかかわらず〉の類 6

23

4. しかし・だが

- 前の内容による想定が後の内容と一致しないことを示す
 - 勉強した。しかし、合格できなかつた
↓ 想定=勉強すれば合格できる ⇝ 期待と不一致
 - 私は貧乏だ。しかし、王くんも貧乏だ。
↓ 想定=他の人はそうではない ⇝ 含意と不一致
 - 値段は安い。しかし、料理の味が悪い。
↓ 想定=良い店だ（プラス評価） ⇝ 評価と不一致

24

4. しかし・だが

- ・〈前の内容による想定〉は使用の文脈によって異なる
 - ・彼は顔がきれいだ。しかし、心が汚い。
→『彼にプラスの評価が与えられる』という想定と不一致
 - ・彼は顔がきれいだ。しかし、心もきれいだ。
→『顔がきれいだと心は汚いものだ』という想定と不一致
- ・彼女は肉が好きだ。しかし、羊は嫌いだ。
→『どんな肉でも好きだ』という想定と不一致
- ・彼女は肉が好きだ。しかし、魚も好きだ。
→『肉と魚は逆のものだ』という想定と不一致

25

4. しかし・だが

- ・「しかし」と「だが」→意味は同等・語体の違いが大きい
 - ・しかし：より口頭語的（文章語でも使用できる）
 - ・だが：より文章語的（口頭語では男性語となる）
 - ・努力はした。{しかし／だが}、成功はしなかった。
 - ・人はそうでしょう。{しかし／？だが} 私は違います。
 - ・口頭語：です・ます調（女性語的）で「だが」は不自然
- ・「しかし」=口頭語的→主観的な意味合いが強くなる
 - ・台湾の人は親切だ。{しかし／だが}、あなたは違う。
 - 「しかし」の方がより批判的な意味に感じられる

26

4. しかし・だが

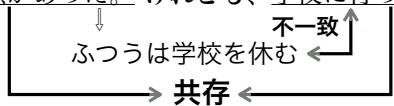
- ・同類の接続語：
 - ・しかしながら
 - ・「しかし」の形式的な語形（より文章語的）
 - ・ですが
 - ・「だが」のていねいな語形（より口頭語的）
 - ・だがしかし
 - ・「だが」と「しかし」を重ねて強調する形
 - ・やや軽い文章語として用いる（俗語的な形）

27

5. けれども・それでも

- 前の内容と、それに合わない後の内容が共存することを示す

- 熱があった。けれども、学校に行った。



- 「けれども」は前の内容の存在を認める意味がより強い

- 気持ちちはわかります。{○けれども}、できません。

- 気持ちちはわかります。{◎けれども}、できないんですよ。

28

5. けれども・それでも

- 「それでも」：前後の内容の不一致が大きな場合に用いる

- 大人10人で食べた。けれども、食べきれなかった。

- 大人10人で食べた。それでも、食べきれなかった。

→下線部を《ほぼ決定的な条件》であると想定している

- 変化が期待される場面で変化が生じない意味を含む

- 毒を飲ませて銃で撃った。それでも、死ななかった。

- 〈生→死〉の変化が、期待通りに生じない意味

29

5. けれども・それでも

- 同類の接続語：

- けれど、けど、だけれども、だけれど、だけど

- 「けれども」のくだけた口頭語形

- ですけど →「だけど」のていねいな形（口頭語）

- でも →「それでも」のくだけた口頭語形

- 言い訳や感情的な表現の前で使われることが多い

- 「でも、知らなかつたんだ。仕方ないだろ。」

- 「でも、どうしても彼女に会いたいんです。」

30

6. ところが・にもかかわらず

- 当然成立するはずの内容が成立しないことを示す
 - 手紙を書いた。 ところが、返事がなかった。
↓
当然返事がくるはず —————↑ 不成立
- 当然のことが成立しないという〈意外な気持ち〉を含む
 - 2時間も待った。しかし、彼はなかつた。
→ 来ないという事実を記述する表現
 - 2時間も待つた。ところが、彼はなかつた。
→ 来ないのに驚く気持ちを含む表現（想定外の事態）

31

6. ところが・にもかかわらず

- 同類の接続語：
 - にもかかわらず（文章語的）
 - 後の内容に論理的に納得できない意味を含む
 - それなのに（口頭語的）
 - 後の内容に心理的に納得できない意味を含む
 - 軽い口頭語形→なのに／硬い文章語形→しかるに
 - そのくせ（口頭語的）
 - 「それなのに」より低い形で、やや古い語感がある

32

A：転換の接続語

- 転換の接続語……③
 - 前後のつながりの種類を指定する接続語
 - 前後の繋がりが新しい（関連性が低い）ことを示す
 - 〈さて・ところで〉の類 7
 - 〈それでは・では〉の類 8

33

7. さて・ところで

- 後の内容を新しい話題として導入することを示す
 - さて : 新しい話題→すでに予定されている印象
 - ところで : 新しい話題→その場で考えたものの印象
 - 台湾は勝ちました。さて、日本はどうでしょう。
 - ??台湾は勝ちました。ところで、日本はどうでしょう。
 - テレビのニュースの場合→「ところで」は不自然
 - *暑いねえ。~~さて、チケットはどうなった？~~
 - 暑いねえ。ところで、チケットはどうなった？
 - 日常の自然な会話の場合→「さて」は使いにくい

34

7. さて・ところで

- 「さて」 : 手紙文で形式的な語として用いる
 - 時候の挨拶・安否の挨拶の後で本題に入るときに使う

拝啓 貴社ますますご隆盛のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、先日苗栗にて開催いたしました弊社商品展示……

- 現在では手紙文の書き出しに「さて」を用いるのが規範的

35

7. さて・ところで

- 「ところで」 : 前後で文脈（話題・話の流れ）が異なる
- 同類の接続語（口頭語） : ときに（やや古い語感がある）
 - 「ところで」と似た働きをする接続語
 - 「しかし」→特に関係のない新しい話題に移る
 - 会議は予定通りです。しかし、暑いですね。
 - 「それはそうと」「それより」
 - より関心のある別の話題に移る
 - 陳さん帰ったの？それはそうと、野球どうなった。
 - テスト合格したんだ。それより、お酒はまだかい？

36

8. それでは・では

- 前の内容から後の内容に話題が切り替わることを示す
 - 今日も暑いですね。それでは、授業を始めましょう。
 - 無関係な話題から本来の話題(=授業のこと)に替える
 - ……方針を示しました。では、次のニュースです。
 - 特定の内容(前のニュース)から別の内容に切り替える
- 順序通りに進んでいく場面での話題の切り替えに使われる
 - 時間ですね。{それでは／では}、さようなら。
 - 時間ですね。{*さそ／*ところで}、さようなら。

37

8. それでは・では

- 「それでは」「では」：基本的に同じ意味で使われる
 - それでは：より口頭語的
 - では：より文章語的（口頭語でも使われる）
 - 文章語→「では、～は……か。」の形で使われやすい
 - 台湾は～である。では、日本の場合はどうだろうか。
 - ……である。では、こう考えるのは正しいだろうか。
- 同類の接続語（くだけた口頭語）：じゃあ、それじゃあ

38

B：列挙の接続語

- 列挙の接続語……④
 - 後続する表現の性質を指定する接続語
 - 後のものがリストの一部であることを示す
 - 〈まず・第一に〉の類 9
 - 〈つぎに・さらに〉の類 10
 - 〈最後に〉の類 11

39

9. まず・第一に

- 後の内容がリストの先頭に位置する項目であることを示す
 - 問題は3つある。まず、予算が不足していることである。
 - 内容を列挙していく際（リスト）に用いられる接続語
 - 箇条書きの「①」「(1)」「1.」と同等の意味を示す
- リストの項目は、語・語句・文・段落などさまざまである
 - 「まず」を含む文の後のかなり長い表現である場合もある
- 何に関するリストかを示す表現の後で使われることが多い
 - 事件には様々な背景がある。まず、なぜこのような……

40

9. まず・第一に

- 接続語の種類：
- リストの性質によって使われる接続語が異なる
 - 汎用のリストに用いる
 - まず
 - 非順序的なリスト（ランキング、単なる列挙など）に用いる
 - 第一に、ひとつ目に、ひとつに、一番に、一に
 - 順序的なリストに用いる
 - 最初に、始めに

41

10. つぎに・さらに

- 後の内容がリストの2つ目以降の項目であることを示す
 - ……である。つぎに、構造が合理的でないことである。
 - 内容を列挙していく際（リスト）に用いられる接続語
 - 箇条書きの「②」「(3)」「5.」と同等の意味を示す
- 2つ目以降の項目ならば何番目でも用いることができる
- リストの項目は、語・語句・文・段落などさまざまである
 - 「つぎに」を含む文の後のかなり長い表現の場合もある

42

10. つぎに・さらに

- 接続語の種類：
- リストの性質によって使われる接続語が異なる
- 汎用のリストに用いる
 - つぎに、さらに、ついで、続いて、そして、それから、また、それに……
- 非順序的なリスト(ランキング、単なる列挙など)に用いる
 - 第二に、よつつ目に、ふたつに、三に……
- 順序的なリストに用いる
 - その後

43

11. 最後に

- 後の内容がリストの最終項目であることを示す
 - ……ある。最後に、責任が不明確だということである。
 - 内容を例挙していく際（リスト）に用いられる接続語
- リストの項目は、語・語句・文・段落などさまざまである
 - 「最後に」を含む文の後のかなり長い表現の場合もある
- リストについての「まとめ」を示す表現が続くことがある
 - 最後に、……である。以上のような多くの問題点が……
- 最終項目ならばリストの種類によらず用いることができる

44

B：最終結果の接続語

- 最終結果の接続語……⑤
 - 後続する表現の性質を指定する接続語
 - 後のものが最終的な結果であることを示す
 - 〈結局・このように〉の類 12
 - 〈いずれにしても・ともあれ〉の類 13

45

12. 結局・このように

- 後の内容が前の内容を承けた最終結果であることを示す
 - ……だった。結局、予算の申請は認められなかつた。
 - 下線部分が最終的な結果となったことを示している
 - 前の内容→《最終結果》までの過程を表わす(原則)
 - 主に〈出来事の帰結〉や〈最終判断(結論)〉を示す
 - このように、世界中で問題視されている。〔帰結〕
 - このように、優れたものであるといえる。〔判断〕

46

12. 結局・このように

- 「結局」と「このように」の違い：
 - このように→前の内容を総括する(まとめる)意味が強い
 - 論理的表現の『まとめ』部分で用いられることが多い
 - 文章語では「このように」の方がより多く使われる
 - 同類の接続語(口頭語的)：こうして
 - 同類の接続語(文章語的)：まとめると、結論的には……
 - 同類の接続語(やや硬い)：かくして、かくて

47

13. いずれにしても・ともあれ

- 前の内容を問わず、後の内容が最終結果であることを示す
 - いずれにしても、今ままではダメだということだ。
 - 下線部分が最終的な結果となったことを示している
 - 前の内容をすべて無効にするという意味を含む
 - 話の流れを無視して急いで結果を得る印象になる
 - 同類の接続語：
 - ともあれ、とにかく、いずれにせよ、どうであれ……

48

C：選択の接続語

- ・選択の接続語……⑥
 - ・前後の内容を比較するように求める接続語
 - ・前後の内容を比較してどちらかを選択するように求める
 - ・〈または〉の類 14
 - ・〈あるいは〉の類 15

49

14. または

- ・複数（主に二者）からひとつを選択するように求める
 - ・ランチには、コーヒー または 紅茶がつきます。
 - ・レンジで加熱します。または、熱湯でゆでます。
 - ・選択の対象→語、語句、文などさまざまな表現が可能
- ・二者択一が基本だが3つ以上を接続することもある
 - ・この問題の正解は、AまたはBまたはCとなる。
- ・同類の接続語：もしくは、ないし、ないしは
 - ・階層的な選択では「もしくは」が「または」の下位レベル
 - ・AまたはBもしくはC → [A or [B or C]]

50

15. あるいは

- ・複数のものからひとつを選択するように求める
 - ・ランチには、コーヒー あるいは 紅茶がつきます。
 - ・レンジで加熱します。あるいは、熱湯でゆでます。
 - ・選択の対象→語、語句、文などさまざまな表現が可能
- ・3つ以上の選択では最後の接続だけに用いることがある
 - ・問題の正解は、A あるいは B あるいは Cです。
 - ・問題の正解は、A、B、あるいは Cです。
- ・同類の接続語：それとも（疑問表現を伴う）
 - ・コーヒーですか。それとも、紅茶ですか。

51

C：対比の接続語

- ・対比の接続語……⑦
 - ・前後の内容を比較するように求める接続語
 - ・前後の内容を比較して違いを明らかにするように求める
 - ・〈一方・他方〉の類 16
 - ・〈それに対して〉の類 17

52

16. 一方・他方

- ・関連する前後の内容の違いを明らかにするように求める
 - ・EUは賛成する方針だ。一方、米国は反対を表明している。
 - ・前後の内容に〈一定の関係〉があることが前提となる
 - ・上の例では〈同じ事態の別々の局面〉という関係
 - ・「関係」はその場で作り出されるものでも構わない
 - ・テレビをつければ、相変わらず汚職のニュースばかりだ。一方、こんな心温まる話題もある。
 - ・『ニュース』と『話題』を主觀で関係づけている
 - ・「他方」は「一方」と同じ意味だが、多くは用いられない

53

17. それに対して

- ・対になった前後の内容の違いを明らかにするように求める
 - ・兄は愚かだ。それに対して、弟は賢い。
 - ・収入は増えている。それに対して、貯蓄は減っている。
 - ・前後の内容が『対（つい）』になっている必要がある
 - ・〈反対の事実〉〈対立する事柄〉〈事柄の両極〉など
 - ・比較的自由に使える「一方」より使用範囲は限定的
 - ・「一方」とは異なり、比較的短い内容の接続が多い

54

17. それに対して

- 同類の接続語：
 - 対して、反対に、反面、その反面、逆に
 - そのかわり
 - 彼女は金持ちだ。そのかわり、彼は貧乏だ。
 - 彼女は金持ちだ。それに対して、彼は貧乏だ。
 - 交換条件を出す場合にも用いられる
 - お金は出す。そのかわり、料理を作ってくれ。
 - *お金は出す。~~それに対して、料理を作ってくれ。~~

55

D：追加の接続語

- 追加の接続語……⑧
 - 後の内容を付け加えるように求める接続語
 - 前の内容に新しい内容を付け加えるように求める
 - 〈そして・それから〉の類 18
 - 〈そのうえ・しかも〉の類 19
 - 〈および・ならびに〉の類 20

56

18. そして・それから

- 前の内容と並立する内容を単に付け加えるように求める
 - 同じ範疇の事柄を(次々に)付け加える場合に使われる
 - 趣味は、食べること、そして、ゲームをすることです。
 - 『食べる』『ゲームをする』→どちらも趣味の範疇
 - 3つ以上の際には最後の接続だけに使うことが多い
 - 読むこと、聞くこと、そして、話すことです。
 - 時間的に継起する事柄を付け加える場合に使われる
 - 仕事を終えて家に帰る。そして、風呂に入る。

57

18. そして・それから

- ・同じ範疇の事柄を(次々に)付け加える場合
 - ・次々に付け加えるときには「それから」の方が自然
 - ◎これ下さい。それから、これ。それから、これも。
 - ○これ下さい。そして、これ。そして、これも。
 - ・「そして」→口頭語・文章語／「それから」→口頭語
- ・同類の接続語：また、ついで
 - ・文章語で「そして」を使うと子どもっぽい印象になる
 - ・文章語では「そして」よりも「また」が好まれる

58

18. そして・それから

- ・時間的に継起する事柄を付け加える場合
 - ・そして：前後の時間経過が比較的長い
 - ・それから：前後の時間経過が比較的短い
 - ・雪が溶けた。 {そして／??それから}、春になった。
 - ・二人は結婚した。 {そして／??それから}、別れた。
 - ・「それから」→時間的に近接するので不自然になる
 - ・「また」→時間的に継起する事柄を付け加える用法はない

59

19. そのうえ・しかも

- ・前の内容と並立する内容をさらに付け加えるように求める
 - ・彼女は頭もよく背も高い。そのうえ、実家が金持ちだ。
 - ・サービスがとても良い店だ。しかも、料金も高くない。
 - ・最後に(決定的な)内容を付け加える意味合いがある
 - ・『AそのうえBそのうえC…』と重ねることは稀
 - ・文と文の接続だけでなく節と節との接続にも用いられる
 - ・成績はクラス最下位だ。しかも、スポーツもできない。
 - ・成績はクラス最下位で、しかも、スポーツもできない。

60

19. そのうえ・しかも

- 軽い口頭語では「……(だ)し」と呼応して使うことが多い
 - 「毎日、暑いよね。しかも、することないし。」
- 「しかも」→想定外(反対)の内容を付け加える用法がある
 - 〈批判〉 〈意外〉などの主觀を表出する意味合いを持つ
 - 彼はウソばかりつく。しかも、謝らない。 [批判]
 - 二人は全然似ていない。しかも、双子だ。 [意外]

61

19. そのうえ・しかも

- 同類の接続語（文章語的）
 - あわせて、くわえて、のみならず、それにくわえて、そればかりでなく、ひいては……
 - 主觀的な意味を表出することがあるもの
 - そればかりか、それどころか、それのみか
- 同類の接続語（口頭語的）：さらに
- 同類の接続語（軽い口頭語）：それに
 - 説得や弁解などで《理由》を追加する際に使われやすい
 - 「練習不足だったから。それに、体調も悪くて。」

62

20. および・ならびに

- 前の内容と並立する内容を同格で付け加えるように求める
 - 必要なものは、パスポート および 申請書です。
 - 前の内容と後の内容は同じだけの重要性を持つ（同格）
 - 比較的短い内容を付け加える場合に用いられる
 - 『A および B および C …』と重ねて使うこともある
 - 「および」と「ならびに」は同じ意味で用いられる
 - 同時に使う場合には「ならびに」が上位レベル
 - AならびにBおよびC → [A and [B and C]]

63

20. および・ならびに

- 同類の接続語（硬い文章語）：かつ
 - 前後に示される条件を同時に満たすという意味を含む
 - 論理的表現で用いる
 - 3は、整数、かつ、自然数である。
 - 規定する文で用いる
 - 女性であり、かつ、未成年であってはならない。
 - 硬質な表現で用いる
 - 彼は、戦士であり、かつ、策士でもあった。

64

D：言い換えの接続語

- 言い換えの接続語……⑨
 - 後の内容を付け加えるように求める接続語
 - 前の内容と同等の内容を付け加えるように求める
 - 〈つまり・すなわち〉の類 21
 - 〈いわば・言うなれば〉の類 22

65

21. つまり・すなわち

- 前と同等だが表現の異なる内容を付け加えるように求める
 - 生命をとりかえる現象、つまり、世代交代が必要だ。
 - 生命をとりかえる現象、すなわち、世代交代が必要だ。
 - 『生命をとりかえる現象』 = 『世代交代』ということ
- つまり：より主観的な言い換え（解釈が含まれる）
- すなわち：客観的な言い換え（前後の同一性が高い）
 - 「嫌い」は、{つまり／？すなわち} 「好き」の意味だ。
 - 「吝嗇」は、{??つまり／すなわち} 「ケチ」の意味だ。

66

21. つまり・すなわち

- つまり→内容を端的に言い換える(要約)場合にも用いる
 - AつまりB : Aの方が(かなり)長いこともある
 - AすなわちB : AとBとは大体同じくらいの長さ
 - 学生の1日は実に多忙である。まず、早起きして朝食をとらねばならない。つぎに、教室で仮眠をとり、それから、昼食をとる。また、ひと眠りして、おやつを食べ、夕食も食べる。それから、友だちとおしゃべりをして、パソコンでゲームやチャットを楽しむ。テレビももちろん見なければならないし、夜食も欠かせない。つまり、勉強する暇など少しもないである。

67

21. つまり・すなわち

- 同類の接続語：ようするに、言い換えれば、換言すれば……

	つまり	すなわち	ようするに
主観的	◎		◎
客観的	○	◎	
要約の用法	あり	なし	あり
口頭語的	○		◎
文章語的	○	◎	

68

22. 言わば・言うなれば

- 前と同等だが表現が比喩的な内容を付け加えるように求める
 - 社長は会社の中心だ。言わば会社の心臓である。
 - 『中心』を『心臓』の比喩で表現している
 - 今回の試合は重要だ。言うなれば、天王山である。
 - 「天王山」=京都にある山で、豊臣秀吉と明智光秀との戦いで重要なことから『運命を決める戦い』の意味
- 同類の接続語：言ってみれば、言うならば、たとえて言えば

69

D：内容説明の接続語

- 内容説明の接続語……⑩

- 後の内容を付け加えるように求める接続語

- 前の内容の詳しい説明を付け加えるように求める
 - 〈なぜなら・というの〉の類 23
 - 〈実は・というより〉の類 24
 - 〈ただし・もっとも〉の類 25
 - 〈たとえば・とりわけ〉の類 26

70

23. なぜなら・というの

- 前の内容の原因や理由を付け加えるように求める

- 夏休みは旅行をしません。なぜなら、貧乏だからです。
 - 文末は「～からです／～からだ」の形が基本となる
 - * ~~旅行をしません。なぜなら、貧乏です。~~
 - 「というの」→相手に理由を説明する場合に多く用いる
 - 私は犬が嫌いです。というの、足を噛まれたからです。
 - 「なぜなら」と同じ意味だが、よりも口頭語的な表現

71

23. なぜなら・というの

- なぜなら：文章語的だが文章に用いると子どもっぽくなる
 - △夏休みは旅行をしません。なぜなら、貧乏だからです。
 - ◎夏休みは旅行をしません。貧乏だからです。
 - 「～からです／～からだ」だけの方が自然な表現である
- 同類の接続語（軽い口頭語）：だって
 - どこにも遊びにいかない。だって、お金がないから。
 - ^{ひいき}畳脛をしてどこが悪い。だって、かわいいんだから。
 - 相手に反論や弁解をするときに用いられることが多い

72

23. なぜなら・というのは

- 同類の接続語（口頭語的）
 - というのも、なぜかっていうと
- 同類の接続語（文章語的）
 - なぜならば
 - 子どもっぽい印象のもの
 - なぜかというと、どうしてかというと
- 同類の接続語（硬い文章語）
 - なんとなれば

73

24. 実は・というより

- 前の内容の詳細または本当の事情を付け加えるように求める
 - お願いがあるんです。実は、最近、お金がなくて……。
 - 『お願いがある』に関する詳細な事情を付け加える
 - 仕事というのは嘘です。実は、お酒を飲んだだけです。
 - 虚偽の(隠していた)事実に本当の事情を付け加える
- 「というより」 → 後の内容(=詳細/本当)を優先させる意味
 - 練習は厳しかった。というより、地獄のようだった。
 - 若者ことばでは「ていうか」「てか」の形で使われる

74

25. ただし・もっとも

- 前の内容に対する条件や限定を付け加えるように求める
 - だれでも参加できます。ただし、乳幼児は除きます。
 - 『だれでも』という内容に対する限定を加えている
 - 同類の接続語「なお」「ただ」も同じ意味を表わす
- 「もっとも」 → 後の内容 = 前の内容とは異なる意見や判断
 - 利益は年1億になる。もっとも、予想通りならばだが。
 - 利益は年1億になる。ただし、予想通りならばだが。
 - 食事もとれます。 {ただし／* もっとも} 有料です。

75

25. ただし・もっとも

- ・同類の接続語：なお、ただ、ちなみに
- ・ただ：「ただし」と同じ意味だが、より軽い語形
- ・なお：「ただし」よりも条件や限定の意味が弱い
 - ・夜間も営業します。 {なお／ただし} 週末は定休です。
 - ・無料で参觀できる。 {？なお／ただし} 申請が必要だ。
- ・ちなみに：
 - ・前の内容に関係のあることを参考として付け加える
 - ・おいしいお菓子です。ちなみに、1つ1000円です。

76

25. ただし・もっとも

- ・同類の接続語（文章語的）：
 - ・とはいえる、とはいうものの、とはいっても、といって、とはいいながら、とはいっても……
 - ・彼は貧乏だ。とはいえる、飢えるほどではない。
 - ・逆接の接続語に近い意味を表わすこともある
 - ・疲れている。とはいえる、仕事は休めない。
 - ・疲れている。けれども、仕事は休めない。
 - ・「とはいえる」→後の内容は補足であり従属的

77

26. たとえば・とりわけ

- ・前の内容を代表する具体例を付け加えるように求める
 - ・苦手な食べ物もあります。たとえば、レバーです。
 - ・具体的な例を挙げることで前の内容を補足する表現
 - ・軽い口頭語から硬い文章語まで広く使うことができる
 - ・「とりわけ」→具体例の中でも特別な・目立つ例を挙げる
 - ・高雄は年中暑い。とりわけ、夏の暑さは異常だ。
 - ・同類の接続語：特に、中でも
 - ・同類の接続語（文章語）：殊に、就中こと なかんずく

78

26. たとえば・とりわけ

- ・ 同類の接続語（文章語的）：具体的には、事実、実際に
 - ・ 聴解では、短時間の反復練習こそ効果的だ。具体的には、毎日30分ずつテレビの日本語放送を見ればよい。
 - ・ 激しい運動は健康に有害である。事実、プロスポーツ選手の寿命は一般人よりも短いのである。
 - ・ 鶏肉は、十分に加熱しなければ危険である。実際に、アメリカでは毎年2万五千人の市民が食中毒で死亡している。
 - ・ 「*実際」の形で使わないように注意する

79

おわり

80